

# 生成AI時代の Talent Reinvention

AI活用前提の仕事へ、人材育成から人材変革へ



# 会社概要

|           |                                                                |                 |        |        |       |       |       |       |
|-----------|----------------------------------------------------------------|-----------------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 名称        | アクセンチュア株式会社（Accenture Japan Ltd）                               |                 |        |        |       |       |       |       |
| 創業(事務所開設) | 1962年                                                          |                 |        |        |       |       |       |       |
| 資本金       | 3億5千万円                                                         |                 |        |        |       |       |       |       |
| 従業員数      | 約30,000人（2026年6月1日時点）                                          |                 |        |        |       |       |       |       |
| ウェブサイト    | <a href="http://www.accenture.com/jp">www.accenture.com/jp</a> |                 |        |        |       |       |       |       |
| 代表取締役会長   | 江川 昌史（兼 アジアパシフィック共同CEO）                                        |                 |        |        |       |       |       |       |
| 代表取締役社長   | 濱岡 大                                                           |                 |        |        |       |       |       |       |
| 取締役       | 関戸 亮司（兼 アジアオセアニアCEO / アジアパシフィック共同CEO）                          |                 |        |        |       |       |       |       |
| 代表取締役副社長  | 立花 良範 / 土居 高廣                                                  |                 |        |        |       |       |       |       |
| 取締役執行役員   | 竹田 絵美                                                          |                 |        |        |       |       |       |       |
| 監査役       | ソウ・ケネス・アルフォンサス（Kenneth A. Seow）                                |                 |        |        |       |       |       |       |
| 常務執行役員    | 金若 秀樹                                                          | 黒川 順一郎          | 戸野本 時直 | 永田 満   | 原口 貴彰 |       |       |       |
|           | ジャンーミッシェル フェレール                                                |                 | 保科 学世  | 堀江 章子  | 水田 響  | 和田 哲彰 |       |       |
| 執行役員      | 秋下 浩                                                           | ステファン・ジャック・ヴィダル | 上野 正雄  | 海老原 城一 | 大浦 三生 | 大野 豊  | 沖村 啓太 | 金森 崇宏 |
|           | 小池 純人                                                          | 柴田 尚之           | 高橋 美奈子 | 瀧澤 明良  | 立石 英司 | 田中 慎二 | 野本 義博 | 廣瀬 隆治 |
|           | 本徳 亜矢子                                                         | 町田 絵里           | 宮良 浩二  | 薮下 幸繁  | 山根 圭輔 | 渡邊 嘉英 | 渡邊 嘉英 | 藤井 大翼 |

2026年9月時点



# Reinvention

AI時代には “Talent Reinvention” が必要

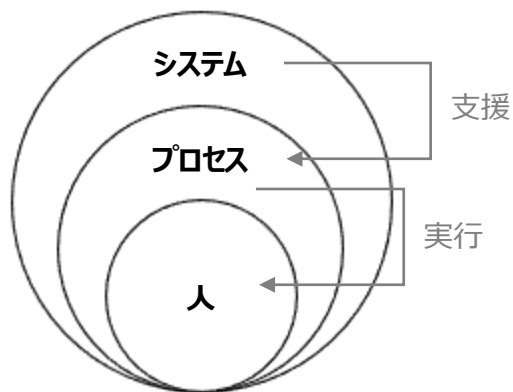
# なぜ企業変革が必要なのか

Why Now

AIによって、仕事そのものの在り方が変わるため、既存業務の延長ではない「<sup>再創造</sup> Reinvention」が必要になる

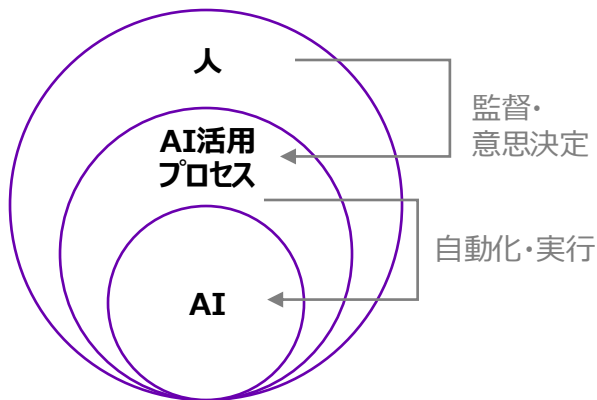
## 従来

人を中心に業務を設計し  
その支援としてシステムを置く



## AI時代

AIを起点に仕事を再設計し  
人の役割が  
「判断・監督・価値創出」へシフトする



### 企業変革の必要性

97%

の経営幹部が、生成AIが企業と  
業界を根本的に変革すると信じている

Accenture, 2025  
[生成AIで企業モデルを再構築する | アクセンチュア](#)

### 仕事の在り方の変化

45%

LLMによって大きな影響を受ける  
可能性のある労働時間(米国の業界平均)

Accenture Research  
(米国労働統計局による職業情報ネットワーク(O\*NET)の分析に基づく)

### スキル・役割の変化

61%

2027年までに世界の労働者の61%(20億人)  
がリスキリングを必要とする

WEF, 2024



# なぜTalent Reinvention(人材変革)が必要なのか

AIによる業務変革は、人材像・人材構成・人材マネジメントの変革に波及する

## AIによる変化

AIを起点とした業務プロセスの再構築

## 人材要件の変化

人に求められる役割が変化

## Talent Reinvention

求める人材像の再定義 — どのような役割・スキルが必要か

人材ポートフォリオの再構築 — 採用・育成・配置転換

行動変容・業務実装 — 現場で新しい働き方を実践

人材マネジメントへの組み込み — 評価・マネジメント・組織文化

## 先進企業の事例

### 【小売】IKEA

### 【金融】みずほFG

#### AIによる変化

AIが定型的な顧客問い合わせを自動化

AIが事務・定型業務を自動化

#### 人材要件の変化

作業・商品知識中心

事務処理中心

↓

顧客理解・提案・関係構築

↓

共感・洞察・顧客価値創出

#### Talent Reinvention

8,500人をリスキリングしデジタル販売等へ

5,000人分の事務作業を削減し、営業等へ再配置

IKEA出典：INGKA, [AI and Remote Selling bring IKEA design expertise to the many](#)

みずほFG出典：みずほFGが事務職員最大5000人を10年で配置転換へ—AIで業務効率化 - Bloomberg



# Talent Reinvention

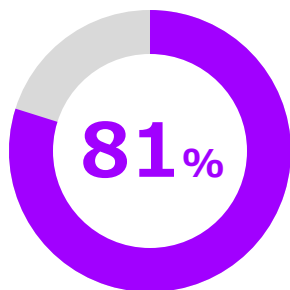
## を取り巻く人材トレンド

# AI活用の認識と成果創出の間に大きなギャップが存在する

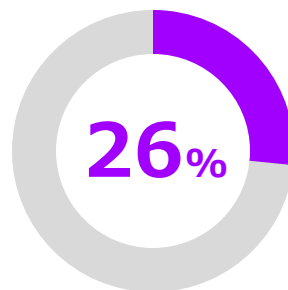
GAP

経営層はAI活用の必要性を認識している一方、  
人材変革の実行は十分に進んでおらず、多くの企業が成果創出に至っていない。

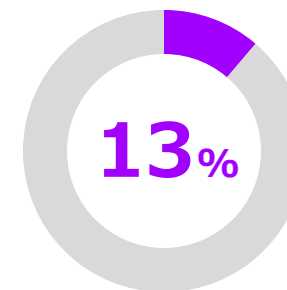
●——— 必要性を認識 —————→      ————— 施策の実行 —————→      ————— 成果創出 —————●



経営幹部が  
「3年以内にAIエージェントが人間と協働する」  
と確信



実際にAIとの協働トレーニングを  
受けた従業員の割合



AIで企業レベルの  
成果を出せている企業の割合

出典 : [Learning Reinvented: Accelerating human-AI collaboration](#)

Copyright © 2026 Accenture. All rights reserved.  
This Proposal is Highly Confidential and Proprietary to Accenture.

# DSS は、企業が目指すべき人材像を示す「日本標準」

デジタルスキル標準

What's DSS

企業はDSSを活用することで、自社の人材戦略を客観的かつ体系的に整理できる

## DXを推進する人材

### DX推進スキル標準(DSS-P)

DXを推進する人材タイプの役割や習得すべきスキルを定義

- ビジネスアーキテクト
- デザイナー
- データマネジメント
- ソフトウェアエンジニア
- データサイエンティスト
- サイバーセキュリティ

## 全てのビジネスパーソン

### DXリテラシー標準(DSS-L)

全てのビジネスパーソンが身につけるべき能力・スキルを定義

## 多くの先進企業がDSSを 人材定義・スキル可視化の共通基盤として採用

富士フイルムHD  
株式会社 DSS-P×(かける)AIコーチングで  
スキル可視化・DX教育最適化。

株式会社  
ファミリーマート 激しい変化に適応し挑戦する  
3つの人材をDSSに基づき定義。

ロジスティード  
株式会社 DX人材育成を「D人材」と「X人材」に体系化。  
DSSを基に8つの人材カテゴリを設定し、  
エキスパートによる専門教育を実施。

関西電力  
株式会社 高度DX人材／各部門のDX推進者／全社員の  
三層の人材を設定。  
DSSに基づきスキル・マインドセットを定義した  
DX人材戦略を策定。

# AI時代に求められる人材要件は再定義されている

Redefined

生成AIにより、日本の人材標準であるDSSも2.0へ更新された

## DSS2.0の変化

### AI活用が「あれば良い」から 「不可欠な前提条件」へ

- AI活用が前提条件へ格上げ
- AIの活用だけでなく、実装・運用・統制まで求められる
- AI時代に対応し、スキル要件を拡張

データサイエンティスト | スキル拡充

### AI活用を支える データマネジメントを新設

- データ品質・整合性の確保を専門領域として定義
- データ利用ルールやガバナンスの重要性が増加
- 独立した専門ロールを新設

データマネジメント | 新設

### DX人材から 変革人材へ

- DXの対象がプロジェクトから組織全体へ拡大
- ビジネスモデル変革・組織変革を推進する役割を強化
- 関係者を巻き込み、共創を促進する能力を重視

ビジネスアーキテクト | ロール刷新

デザイナー | ロール刷新

## 何が変わったか

## 関連ロール

今後も関係省庁・産業界と連携したアップデートが続く見込み

# 成果を出す企業は「何を学ぶか」ではなく「どう学ぶか」を変えている

Co-learning

研修中心の学習から、業務と学習を一体化するCo-learningへの転換している

|    | 教育で終わる会社                 | 成果につなげている会社                                    |
|----|--------------------------|------------------------------------------------|
| 目的 | 受講率・修了率                  | 業務変化・行動変容                                      |
| 設計 | 学習を「研修イベント」<br>として設計している | <b>Co-learning</b> として<br>学習を業務の流れに<br>組み込んでいる |
| 結果 | 研修後<br>現場では何も変わらない       | 学ぶほど業務が変わり<br>成果創出につながる                        |

Co-learningを実践している企業

4倍 スキル習得速度が速い

5倍 従業員  
エンゲージメントが高い

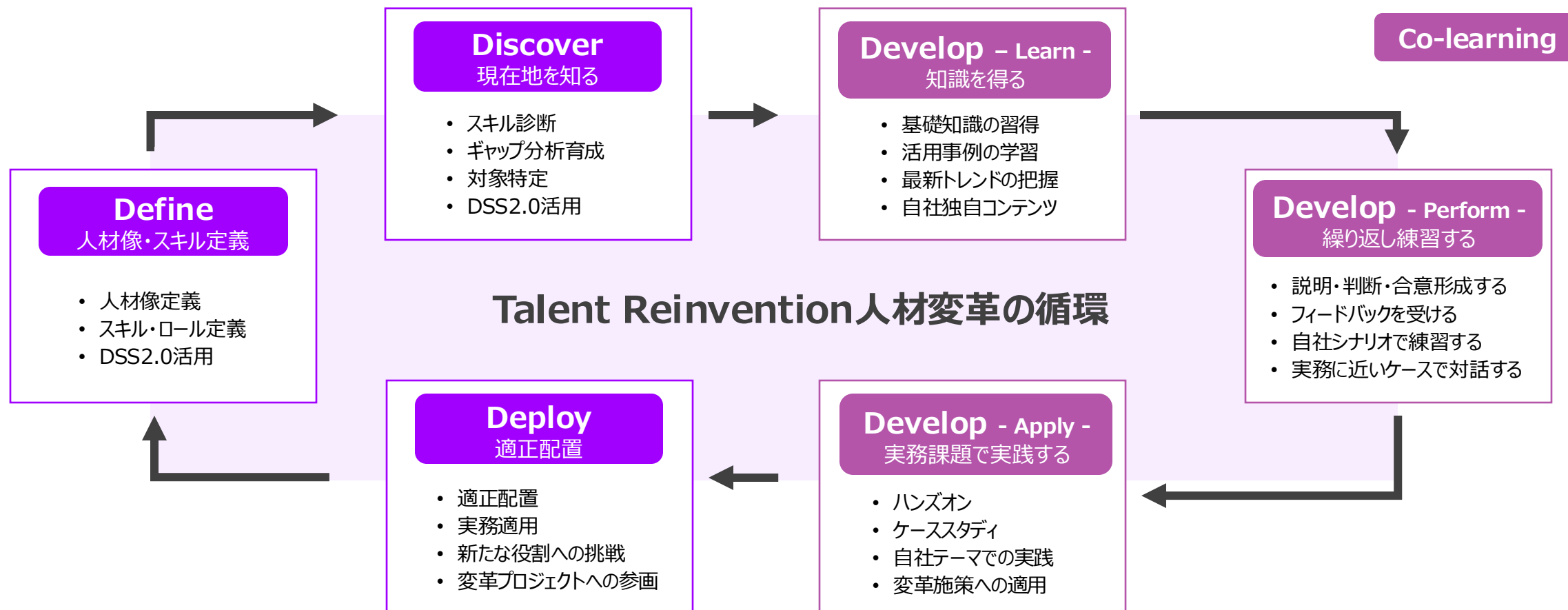
1.4倍 収益性向上の可能性が高い

+2.8点 競合比・収益成長率が高い

Co-learning(コ・ラーニング)：学習を仕事の一部として、設計し、AIと人間が互いに学び合う組織のあり方。Accenture定義。  
出典：Accenture「Learning Reinvented 2025」(14,000人の従業員・1,100人の経営幹部、20業種・12カ国を対象としたグローバル調査)

# Talent Reinventionは研修ではなく、一連の変革サイクルで実現する

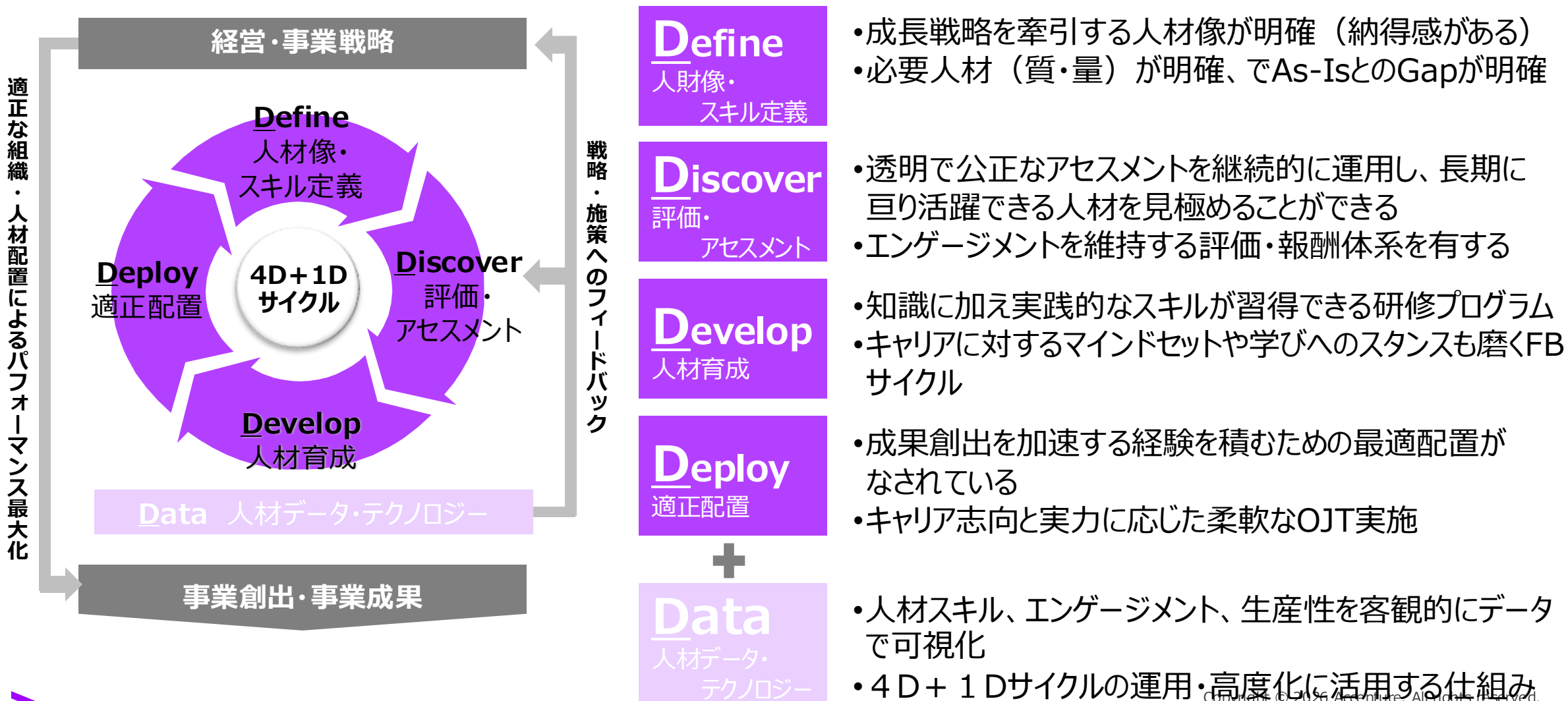
人材像の定義から、学習・実践・活躍・成果創出を循環させ、継続的なTalent Reinventionを実現する



# サービス全体像

A large, white, stylized outline of a right-pointing arrow is positioned on the right side of the image. The arrow is composed of several straight line segments, creating a modern, geometric look. It points towards the right edge of the frame. The background is a solid purple color with a subtle gradient, transitioning from a darker shade on the left to a lighter shade on the right.

# 人材育成のメカニズム～4D+1D



# Talent Reinventionを実現するサービス全体像

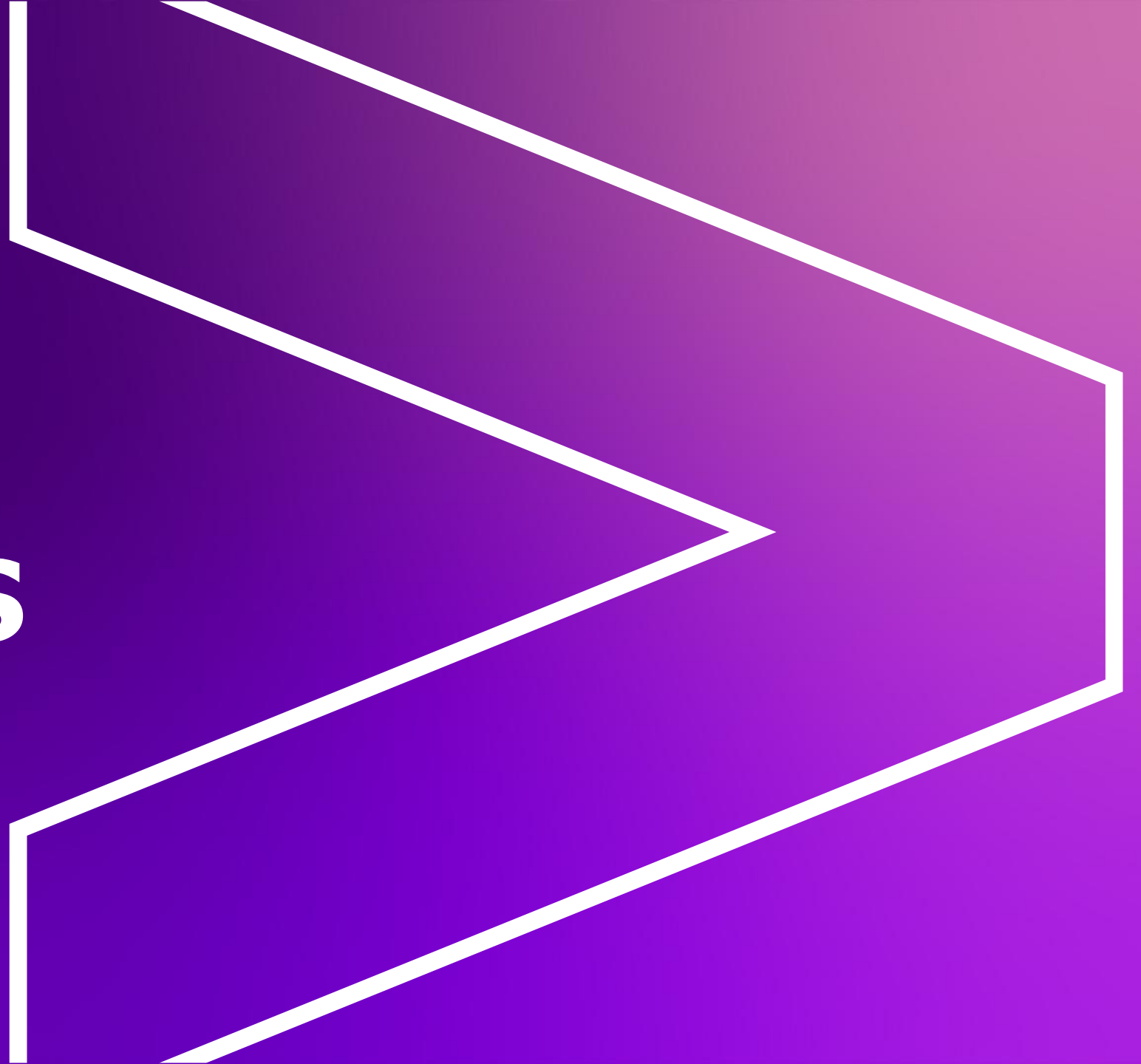
人材変革は研修単体ではなく、現状把握・学習・実践・定着を循環。業務変革と成果創出まで一気通貫支援



# サービス詳細



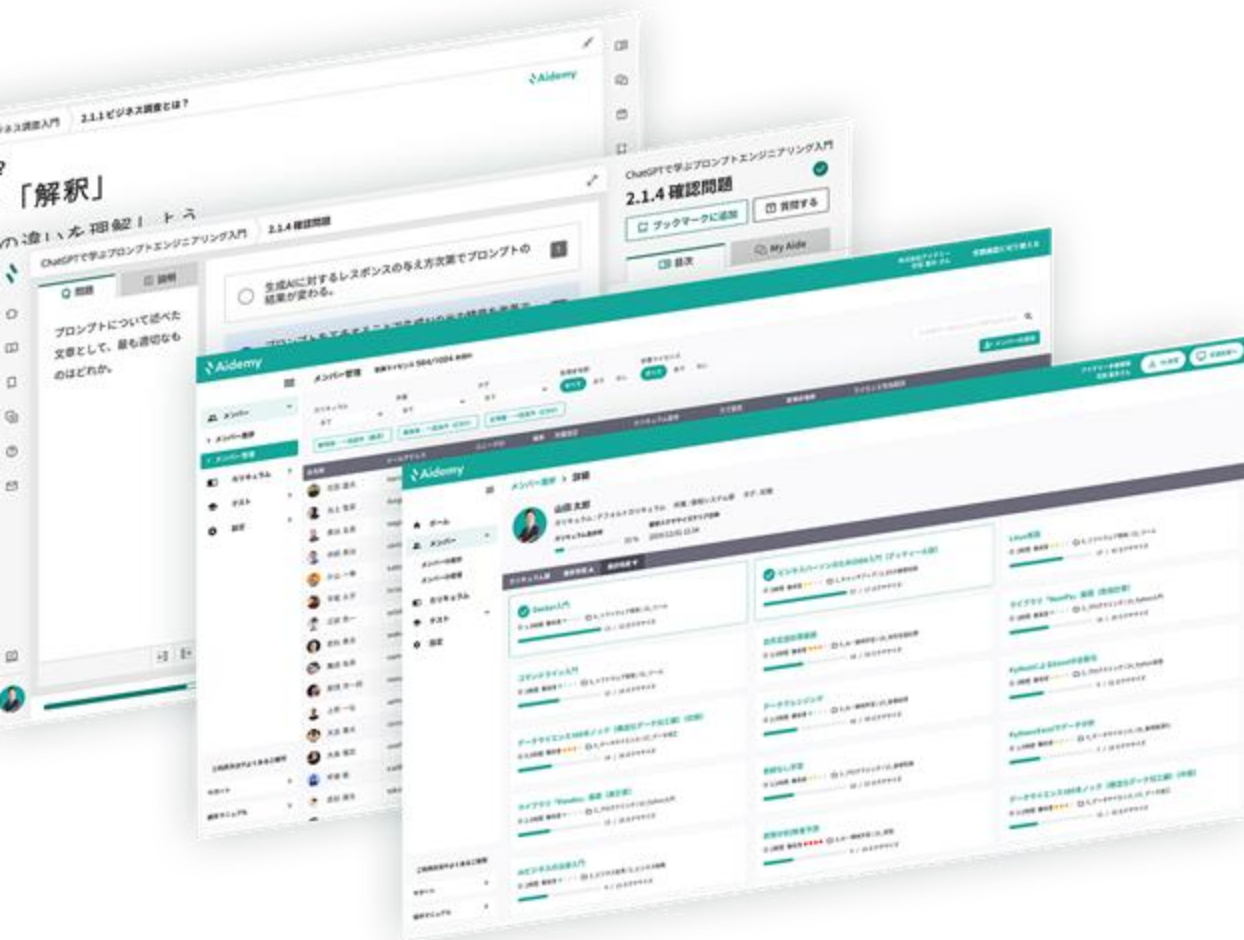
**Aidemy  
Business**



# Talent Reinventionを支える学習基盤「Aidemy Business」

概要

大企業を中心に多くの企業のAI/DX人材育成を支援



**Aidemy BUSINESS**  
Part of Accenture

導入累計企業  
数百社+

利用者  
47万人+



# 導入実績 – 多様な業界で選ばれています

実績



製造業等

|                                                                                                                                    |                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>素材・基礎資材系</p> <p>非鉄金属</p> <p>鉄鋼</p> <p>金属製品</p> <p>ガラス・土石製品</p> <p>パルプ・紙</p> <p>石油・石炭製品</p> <p>ゴム製品</p> <p>化学・医療系</p> <p>医薬品</p> | <p>加工・組立系</p> <p>自動車／輸送機器</p> <p>電気機器</p> <p>機械</p> <p>精密機器</p> <p>半導体／医療機器</p> <p>建設・プラント系</p> <p>建設・プラント</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



サービス・公共

|         |
|---------|
| サービス業   |
| 教育      |
| 行政・公共団体 |



金融・コンサル

|          |
|----------|
| 保険業      |
| 証券業      |
| 銀行業      |
| コンサルティング |
| 不動産業     |



人材

|    |
|----|
| 人材 |
|----|



物流・運輸

|          |
|----------|
| 倉庫・運輸関連業 |
| 陸運業      |
| 海運業      |



化学・製薬

|    |
|----|
| 化学 |
| 製薬 |



情報通信

|        |
|--------|
| 情報通信   |
| システム開発 |



商社／小売

|     |
|-----|
| 商社  |
| 卸売業 |
| 小売業 |



食料品

|        |
|--------|
| 食料品    |
| 水産・農林業 |



エネルギー

|        |
|--------|
| 電気・ガス業 |
|--------|

# Talent Reinventionを支える学習基盤「Aidemy Business」

特徴

継続学習 × 自社最適化 により、企業のTalent Reinventionを支える学習基盤を提供

## —— 最新テーマを継続的に学び続けられる ——

AI・DX・生成AIは進化が速く、  
一度学んで終わりではなく、継続的な知識のアップデートが求められる。

### 豊富なコース数

コース数  
**300+**

トピック例

- AI
- AIガバナンス
- AI時代の対人力
- DX
- 情報セキュリティ
- シニアリスキング

### 変革テーマ別 カリキュラム

- AI・DX・生成AI領域を幅広くカバー
- テーマに応じた体系的な学習設計

### 最新テーマへの追従

- トレンドに合わせた新コース追加
- 既存コースの継続更新

### 最新知識の配信 Knowledge Feed

- 生成AIを中心とした最新トピックスを継続配信
- 現場で活用できる知見を提供

## オプション

## —— 自社独自の強みを教材化 ——

汎用教材では対応できない、自社独自の強みや  
競争優位の源泉を学習コンテンツ化

### 自社情報の反映

商品 | 制度 | 業務プロセス

### 独自知見の教材化

業務ノウハウ | 成功事例

### オリジナルコンテンツ開発

生成AIによる高速な開発

# オプション | 自社独自の強みを教材化

オプション

生成AIによる高速な「オリジナルコンテンツ開発」



業界とカルチャーを熟知したコンサルタントが  
個社ごとにコンテンツ・シナリオをカスタマイズ



監修者本人が語るアバター・音声を再現



抽象論に終わらない、人が作ったような具体的教材

## CHAPTER 2 攻撃はどう変わったか

### 日本は「狙いやすい標的」と認識されている



#### データで見る現実※

- ・ 新種メール攻撃の9割が日本標的（2025年7月）
- ・ 日本・韓国でビジネスメール詐欺の増加率が上位
- ・ IPA10大脅威2026：1位ランサム・2位サプライチェーン（4年連続）



#### なぜ日本が狙われるのか

経済規模が大きく身代金を払える企業が多い / 対策が欧米に比べて遅れがち / 重要インフラ企業が集中し攻撃価値が高い

「うちは地方だから」という顧客にこそ、規模や業種を問わず標的になる現実が響きます。

※出典：キャンノンITS（2025年7月）／ProofPoint（2024年）／IPA 情報セキュリティ10大脅威2026



## カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

## コース例

## 情報セキュリティ

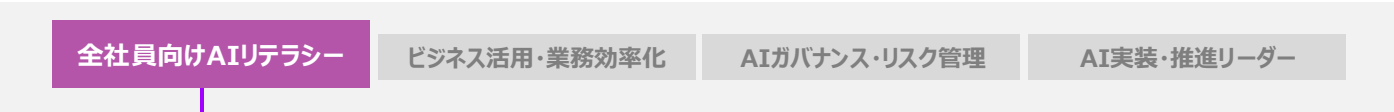
| No | コース名                          | 概要                             | 時間<br>(h) | 対応<br>ライセンス |
|----|-------------------------------|--------------------------------|-----------|-------------|
| 1  | 情報セキュリティよもやま話 Vol.1           | パスワード・WiFi等、身近な例で学ぶ情報セキュリティの基本 | 0.5       | プロ          |
| 2  | 情報セキュリティよもやま話 Vol.2           | オンライン攻撃から身を守るための対策             | 1         | プロ          |
| 3  | 10分でキャッチアップ   サイバーセキュリティとは    | セキュリティの基本の仕組みと個人の対策を短時間で       | 0.2       | ベース         |
| 4  | 事例で学ぶ！ パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護 | 企業トラブル事例と、法律・リスク低減のフレームワーク     | 1         | ベース         |
| 5  | DX推進におけるセキュリティマネジメント 基本知識編    | 法制度・ガバナンス・ポリシー構造の基礎知識          | 1         | プロ          |
| 6  | DX推進におけるセキュリティマネジメント 運用編      | SOC/CSIRTの役割、高度化する攻撃手法と対応策     | 1         | プロ          |
| 7  | ゼロトラスト・セキュリティ概論               | 台頭の経緯と目的、自社活用の検討につながる知識        | 1.5       | プロ          |
| 8  | 事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論       | インシデント対策の考え方と対応方法の全体像          | 1.5       | ベース         |

# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

## カリキュラム例

## 生成AI学習カリキュラム



生成AIを「知らない・怖い」状態から「日常業務で使える」状態へ

| No                    | コース名                                | 時間<br>(h) | 対応<br>ライセンス |
|-----------------------|-------------------------------------|-----------|-------------|
| Phase 1   生成AIとは何かを知る |                                     |           |             |
| 1                     | 10分でキャッチアップ   生成AIとは                | 0.5       | ベース         |
| 2                     | 生成AI時代の知的労働                         | 1.8       | ベース         |
| 3                     | 10分でキャッチアップ   生成AIを支えるアーキテクチャとモデル   | 0.2       | ベース         |
| Phase 2   ツールを触って体験する |                                     |           |             |
| 4                     | 【新】ChatGPT入門                        | 0.5       | ベース         |
| 5                     | Microsoft Copilot入門                 | 1         | ベース         |
| 6                     | Microsoft Copilot×Wordではじめる文書作成効率化  | 0.2       | ベース         |
| 7                     | Microsoft Copilot×Teamsでできる議事録作成効率化 | 0.3       | ベース         |
| 8                     | Claude入門                            | 0.5       | ベース         |
| 9                     | Claude業活用                           | 0.5       | ベース         |

| No                            | コース名                        | 時間<br>(h) | 対応<br>ライセンス |
|-------------------------------|-----------------------------|-----------|-------------|
| Phase 3   指示文（プロンプト）を書けるようになる |                             |           |             |
| 10                            | ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門   | 1         | ベース         |
| 11                            | ChatGPTではじめるかんたんメール作成       | 0.2       | ベース         |
| 12                            | ChatGPTではじめるかんたんリサーチ        | 0.2       | ベース         |
| Phase 4   安全な使い方・倫理を学ぶ        |                             |           |             |
| 13                            | AI時代に必須の「AI倫理」              | 1         | プロ          |
| 14                            | 10分でキャッチアップ   生成AIコンテンツと著作権 | 0.2       | ベース         |
| 15                            | 10分でキャッチアップ   AIガバナンスとは     | 0.5       | ベース         |

合計 8.6



# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

カリキュラム例

生成AI学習カリキュラム



生成AIを業務フローに組み込み、資料作成・分析・提案業務を高速化する実践型カリキュラム

| No                          | コース名                          | 時間 (h) | 対応 ライセンス |
|-----------------------------|-------------------------------|--------|----------|
| Phase 1   AIと働く新しい仕事の進め方を知る |                               |        |          |
| 1                           | 生成AI時代の知的労働                   | 1.8    | ベース      |
| 2                           | ～Agentic AI時代の～外資系コンサルの仕事の進め方 | 1.5    | ベース      |
| 3                           | 生成AI時代のコミュニケーション              | 2.3    | ベース      |
| Phase 2   生成AIで業務アウトプットを高める |                               |        |          |
| 4                           | ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門     | 1      | ベース      |
| 5                           | 生成AI時代のサマリライティング              | 2.6    | ベース      |
| 6                           | 生成AI時代の資料作成                   | 1.5    | ベース      |
| 7                           | 生成AI時代のリサーチ/インタビュー            | 1.1    | ベース      |
| 8                           | 生成AI時代のクリエイティブ基礎              | 1.3    | ベース      |

| No                             | コース名              | 時間 (h) | 対応 ライセンス |
|--------------------------------|-------------------|--------|----------|
| Phase 3   データ分析・意思決定に生成AIを活用する |                   |        |          |
| 9                              | 生成AI時代のアナリティクス基礎  | 1.6    | ベース      |
| 10                             | 生成AI時代の分析ハンズオン    | 1.7    | ベース      |
| 11                             | 生成AI時代のファイナンス分析基礎 | 1.4    | ベース      |

合計 17.8

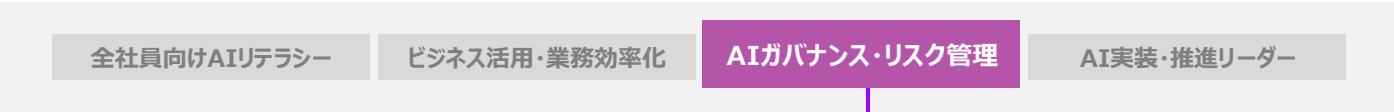


# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

## カリキュラム例

## 生成AI学習カリキュラム



AI導入に伴うリスクを適切に管理し、社内ガイドラインの策定・運用を担うための知識を習得

| No                             | コース名                              | 時間 (h) | 対応 ライセンス |
|--------------------------------|-----------------------------------|--------|----------|
| Phase 1   AI技術とビジネス変革の全体像を把握する |                                   |        |          |
| 1                              | 10分でキャッチアップ   生成AIとyは             | 0.5    | ベース      |
| 2                              | 10分でキャッチアップ   生成AIを支えるアーキテクチャとモデル | 0.2    | ベース      |
| 3                              | 事例で学ぶ！生成AI組み込みで社内業務効率化            | 1      | ベース      |
| 4                              | AI固有のリスクと品質保証                     | 1      | プロ       |
| Phase 2   法律・倫理・ガバナンスを理解する     |                                   |        |          |
| 5                              | AI時代に必須の「AI倫理」                    | 1      | プロ       |
| 6                              | AIビジネスの法律入門                       | 1      | プロ       |
| 7                              | 10分でキャッチアップ   AIガバナンスとは           | 0.5    | ベース      |
| 8                              | 10分でキャッチアップ   生成AIコンテンツと著作権       | 0.2    | ベース      |
| 9                              | 事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護      | 1      | ベース      |

| No                        | コース名                       | 時間 (h) | 対応 ライセンス |
|---------------------------|----------------------------|--------|----------|
| Phase 3   セキュリティ管理体制を整備する |                            |        |          |
| 10                        | DX推進におけるセキュリティマネジメント 基本知識編 | 1      | プロ       |
| 11                        | DX推進におけるセキュリティマネジメント 運用編   | 1      | プロ       |
| 12                        | 事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論    | 1.5    | ベース      |

合計 9.4



## カリキュラム例

## 生成AI学習カリキュラム

全社員向けAIリテラシー

ビジネス活用・業務効率化

AIガバナンス・リスク管理

AI実装・推進リーダー

生成AIを社内に実装・横展開し、業務変革を自走させるリーダーを育成

| No                               | コース名                   | 時間(h) | 対応ライセンス |
|----------------------------------|------------------------|-------|---------|
| Phase 1   AI活用の戦略・事業価値を設計する      |                        |       |         |
| 1                                | 事業戦略におけるデータ・AI活用       | 1.5   | プロ      |
| 2                                | 事例で学ぶ！生成AI組み込みで社内業務効率化 | 1.0   | ベース     |
| 3                                | 投資対効果を最大化するAI導入        | 3.0   | プロ      |
| Phase 2   生成AIを社内に実装・展開する技術を習得する |                        |       |         |
| 4                                | LLMに外部知識を取り入れる！RAG入門   | 1.0   | プロ      |
| 5                                | 10分でキャッチアップ   AIEージェント | 0.2   | ベース     |
| 6                                | ノーコードで始めるChatGPT活用術    | 1.0   | プロ      |
| 7                                | 10分でキャッチアップ   RAG      | 0.2   | ベース     |

| No                          | コース名                     | 時間(h) | 対応ライセンス |
|-----------------------------|--------------------------|-------|---------|
| 8                           | GPTsとDifyでビジネスを効率化       | 1.0   | プロ      |
| 9                           | ゼロからイチを生み出すDify活用術       | 0.5   | プロ      |
| 10                          | Claude Code入門            | 0.8   | プロ      |
| Phase 3   AIプロジェクトをマネジメントする |                          |       |         |
| 11                          | AIプロジェクトを成功させる上流工程のツボ    | 1.0   | プロ      |
| 12                          | AIプロジェクトマネジメント           | 2.0   | プロ      |
| Phase 4   変革を組織に定着させる       |                          |       |         |
| 13                          | 変革マネジメント～ミドルアップで"壁"を越える～ | 1.0   | ベース     |
| 14                          | ケーススタディで学ぶ実践PoC入門        | 1.5   | プロ      |

合計 15.7

# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

## カリキュラム例

## 経産省「DX推進スキル標準」対応

DXを推進する6つの人財

ビジネスアーキテクト

データサイエンティスト

データマネジメント

サイバーセキュリティ

ソフトウェアエンジニア

デザイナー

新事業の目的を設計し関係者を調整しながら推進

| No | コース名                                         | 時間 (h) | 対応<br>ライセンス | No | コース名                         | 時間 (h) | 対応<br>ライセンス |
|----|----------------------------------------------|--------|-------------|----|------------------------------|--------|-------------|
| 1  | ビジネスを成功に導く：<br>ポートフォリオマネジメントとスタートアップエコシステム構築 | 1      | プロ          | 10 | ビジネス変革に求められるプロダクトマネジメント      | 0.5    | プロ          |
| 2  | ビジネス変革に求められるプロダクトマネジメント                      | 0.5    | プロ          | 11 | ビジネス変革を起こすためのマーケティング入門       | 1.5    | プロ          |
| 3  | 変革マネジメント ～ミドルアップで“壁”を越える～                    | 1      | プロ          | 12 | ビジネス変革を起こすためのブランディング入門       | 1.5    | ベース         |
| 4  | 複雑さに対応するためのシステムズエンジニアリング概論                   | 1      | プロ          | 13 | UXデザイン概論 ～ユーザー中心設計を理解する～     | 1      | プロ          |
| 5  | エンタープライズアーキテクチャ：全体最適で事業を再構築する                | 1.5    | プロ          | 14 | UXデザイン実践 ～プロトタイプ作成～          | 1      | プロ          |
| 6  | プロジェクトマネジメント入門                               | 1      | プロ          | 15 | ビジネス統計学入門                    | 2.5    | ベース         |
| 7  | 社会課題やメガトレンドをつかむ！ビジネス調査入門                     | 1      | プロ          | 16 | 事業戦略におけるデータ・AI活用             | 1.5    | プロ          |
| 8  | プロが伝える！新規事業の心構え                              | 1.5    | プロ          | 17 | 事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護 | 1      | ベース         |
| 9  | ビジネスアナリシス概論：エンタープライズ変革に求められる力                | 1      | ベース         | 合計 |                              | 20     |             |



# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

## カリキュラム例

## 経産省「DX推進スキル標準」対応



### データ解析で有益な知見を導き業務やビジネスを変革

| No | コース名                        | 時間 (h) | 対応<br>ライセンス | No | コース名                          | 時間 (h) | 対応<br>ライセンス |
|----|-----------------------------|--------|-------------|----|-------------------------------|--------|-------------|
| 1  | UXデザイン実践～プロトタイプ作成～          | 1      | プロ          | 18 | 製造業におけるシミュレーション実践             | 1.5    | プロ          |
| 2  | ビジネス統計学入門                   | 2.5    | ベース         | 19 | 機械学習概論                        | 1.5    | プロ          |
| 3  | ビジネスパーソンのためのデータサイエンス入門      | 2      | プロ          | 20 | 教師あり学習（回帰）                    | 1      | プロ          |
| 4  | AIプロジェクトマネジメント              | 2      | プロ          | 21 | 教師あり学習（分類）                    | 3      | プロ          |
| 5  | 数学入門（線形代数）                  | 2      | プロ          | 22 | 教師なし学習                        | 2.5    | プロ          |
| 6  | 数学入門（微分積分）                  | 2      | プロ          | 23 | ディープラーニング基礎                   | 3      | プロ          |
| 7  | ビジネス統計学入門                   | -      | ベース         | 24 | スクラッチ実装して理論を体得する強化学習          | 6      | プロ          |
| 8  | 【新】ライブラリ「Matplotlib」基礎（可視化） | 4      | プロ          | 25 | 自然言語処理基礎                      | 3.5    | プロ          |
| 9  | データクレンジング                   | 2.5    | プロ          | 26 | CNNを用いた画像認識                   | 3      | プロ          |
| 10 | 教師あり学習（回帰）                  | 1      | プロ          | 27 | 深層学習の適用（音声認識）                 | 2      | プロ          |
| 11 | 教師あり学習（分類）                  | 3      | プロ          | 28 | ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門     | 1      | ベース         |
| 12 | 時系列解析 I（統計学的モデル）            | 4.5    | プロ          | 29 | 生成モデル                         | 3      | プロ          |
| 13 | 意思決定につなげる教師なしクラスタリング        | 3      | プロ          | 30 | 深層学習の適用（WaveNet）              | 1.5    | プロ          |
| 14 | ネットワーク分析入門                  | 4.5    | プロ          | 31 | コンピュータサイエンス入門                 | 1.5    | プロ          |
| 15 | 異常検知入門                      | 5.5    | プロ          | 32 | 生産性を高める チーム開発入門               | 1.5    | プロ          |
| 16 | Power BI基礎編 データ可視化と活用概論     | 1      | ベース         | 33 | 事例で学ぶ！ パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護 | 1      | ベース         |
| 17 | 現場で役立つPython×数理最適化：入門編      | 2      | プロ          |    |                               |        |             |
|    |                             |        |             |    |                               | 合計     | 79          |



## カリキュラム例

## 経産省「DX推進スキル標準」対応

DXを推進する6つの人材

ビジネスアーキテクト

データサイエンティスト

データマネジメント

サイバーセキュリティ

ソフトウェアエンジニア

デザイナー

## サイバー対策を導入・運用し事業の安定を支える

| No | コース名                                          | 時間(h) | 対応ライセンス |
|----|-----------------------------------------------|-------|---------|
| 1  | コンピュータサイエンス入門                                 | 1.5   | プロ      |
| 2  | 生産性を高める チーム開発入門                               | 1.5   | プロ      |
| 3  | ソフトウェアエンジニアのための設計手法 基礎                        | 1.5   | プロ      |
| 4  | 「早めのテスト」で開発の質とスピードを改善！ソフトウェアテストの実践            | 1.5   | プロ      |
| 5  | ゼロから始めるWebアプリケーション開発                          | 1.5   | プロ      |
| 6  | ゼロから始めるフロントエンドシステム開発                          | 1.5   | プロ      |
| 7  | クラウド入門                                        | 1     | プロ      |
| 8  | 明日から活かす、DevOps                                | 1.5   | プロ      |
| 9  | 定型業務を自動化しよう！ 概論編 RPA入門                        | 1     | ベース     |
| 10 | 定型業務を自動化しよう！ 実践編 Power Automate for desktop入門 | 1     | プロ      |
| 11 | 現実世界をデジタル化してDXを推進！フィジカルコンピューティング              | 1.5   | プロ      |

| No | コース名                         | 時間(h) | 対応ライセンス |
|----|------------------------------|-------|---------|
| 12 | ブロックチェーン入門                   | 1     | プロ      |
| 13 | Web3入門                       | 0.5   | プロ      |
| 14 | ブロックチェーン基礎                   | 2     | プロ      |
| 15 | ブロックチェーン発展Ⅰ                  | 4     | プロ      |
| 16 | ブロックチェーン発展Ⅱ                  | 3     | プロ      |
| 17 | ブロックチェーン発展Ⅲ                  | 3     | プロ      |
| 18 | DX推進におけるセキュリティマネジメント 基本知識編   | 1     | プロ      |
| 19 | 事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論      | 1.5   | ベース     |
| 20 | 事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護 | 1     | ベース     |
| 21 | ゼロトラスト・セキュリティ概論              | 1.5   | プロ      |
| 22 | エンジニアのためのセキュリティ入門            | 1     | プロ      |

合計 34.5

# カリキュラム | テーマに応じた体系的な学習設計

ピックアップ

コース例

コンサルベーシックトレーニング

| No | コース名                            | 概要                                      | 時間<br>(h) | 対応<br>ライセンス |
|----|---------------------------------|-----------------------------------------|-----------|-------------|
| 1  | 【コンサルベーシックスキルトレーニング】データ分析       | 課題定義から仮説立案、データ分析、示唆の導出までを学ぶ             | 2.8       | ベース         |
| 2  | 【コンサルベーシックスキルトレーニング】ロジカルシンキング   | ロジカルシンキングを実務で使いこなすための考え方を学ぶ             | 1.4       | ベース         |
| 3  | 【コンサルベーシックスキルトレーニング】クリティカルシンキング | クリティカルシンキングの基本と思考の精度を高める考え方を学ぶ          | 1.1       | ベース         |
| 6  | 【コンサルベーシックスキルトレーニング】リサーチヒアリング   | リサーチとヒアリングを通じて、意思決定につながる示唆を導く実践的な進め方を学ぶ | 3.6       | ベース         |



# AI RolePlay



# 行動変容を促す学習基盤 AI RolePlay

人との対話型UXで、いつでも・何度でも実践演習とフィードバックを繰り返し、学びを実践力へと転換



## 日程調整不要

相手の都合を気にせず、  
いつでも・何度でも実践練習が可能

- スケジュール調整不要
- 空き時間ですぐに演習開始
- 納得いくまで繰り返し練習

## 評価の標準化

評価者による判断のばらつきをなくし、  
均質な演習環境を提供

- 同一シナリオを全員へ提供
- 評価基準を統一
- 属人的な判断の差を解消

## 本音のフィードバック

AIだからこそ、遠慮のない客観的なフィードバックを提供

- 厳しい改善指摘も可能
- ハラスメントや感情への過度な配慮が不要
- 行動改善ポイントを明確化

# AI RolePlay デモ動画

## AIロールプレイ 実践動画

---

AI Roleplay |  accenture

# 自社の業務課題に合わせたシナリオで実践演習

顧客設定・会話展開・評価基準を自由に設計し、説明・判断・合意形成を繰り返してトレーニング

## シナリオ設定

実務に即した状況・人物を設定

テーマ：顧客へのアセスメント結果説明

顧客の状況：アセスメントを実施したものの、指摘事項への対応体制・ノウハウが不足

受講者の役割：金融系・インフラ運用マネージャーへの提案担当

顧客の本音：「指摘だけされても困る。対応できる人材もいない」

## AI顧客との対話

顧客の反応に応じた対話・繰り返し

## 評価・フィードバック

AIが自動採点

顧客

アセスメントをやったら指摘がいろいろ出てくるでしょう。  
対応できる人もいないし、やったところで無駄なんじゃないですか

### 不安を受け止め、目的を再定義

おっしゃる通り、指摘の山だけ渡されても困りますよね。  
ですので私たちは、全部直すためではなく『直す順番を決める』ためのアセスメントとしてご提案しています

営業

顧客

順番が分かったところで、結局直すのはうちですよ。手が回りませんよ

### 後工程まで伴走する価値を提示

そこで終わらないのが 本提案 です。  
優先順位付けの先の修復方針・実装のご提案・適用後の確認まで、直しきるところまで私たちが伴走します

営業

### 締めめの一言

まずは重要システムに絞ったスモールスタートを始めませんか。出てきた指摘の対応計画までセットでお持ちします

営業



「やっても無駄では」の不安を受け止められたか  
(頭ごなしに否定しない)



目的を「直す順番を決める」に再定義し、  
後工程まで伴走する価値を語れたか



スモールスタート+ 対応計画セットで  
次アクションのハードルを下げられたか

# 用意している標準的なシナリオ例

スキル領域別の4カテゴリで標準シナリオを用意し、受講前後の行動変容イメージを提示

## 01 対人力の強化

### シナリオ例

- ・炎上案件での高圧的なクライアントへの切り返し
- ・経営層への課題ヒアリング・期待値の調整

**Before** 想定外の詰問に沈黙し、防戦一方に

**After** 高圧的な場面でも落ち着いて対話し、信頼を回復

## 02 デジタル・技術知識の確認

### シナリオ例

- ・セキュリティ・生成AI商材の顧客向け説明
- ・技術的な質問への想定問答（Q&A）

**Before** カタログ通りの説明に終始してしまう

**After** 顧客の業務に引き付け、自分の言葉で価値を語れる

## 05 提案・プレゼンテーション力

### シナリオ例

- ・顧客課題を起点とした価値提案プレゼン
- ・提案書レビューでの想定問答・詰めの確認

**Before** 一方通行の機能説明で、顧客に刺さらない

**After** 課題起点でベネフィットを端的に訴求できる

## 04 交渉・クロージング力

### シナリオ例

- ・価格交渉・値引き要請への対応
- ・競合比較・反論への切り返し

**Before** 値引きに頼り、交渉の主導権を握れない

**After** 価値の根拠を示し、条件を守って合意形成できる

# 職種別に「Input → 複数ケース実践 → 業務成果」まで設計

テーマごとに必要なe-learningコースを組み合わせ、AI RolePlayでは複数の相手・場面・制約を設定する。  
知識習得ではなく、業務で必要な対話・提案・反論対応まで育成する。

## Case 1 | 生成AI・業務改善提案

### 対象者

DX推進担当／業務部門の選抜人材／生成AI活用リーダー

### INPUT e-learning 9時間/5週間

ChatGPT、プロンプト、業務改善、課題設定、AI倫理、PoC

### PRACTICE AI RolePlay 約8時間/約8週間

現場ヒアリング、部門長提案、IT・セキュリティ審査、ROI・PoC審査、経営提案

### OUTCOME

自部署の生成AI活用テーマを整理し、PoC実施に向けた合意形成ができる

## Case 2 | データ分析結果の説明・意思決定支援

### 対象者

データ分析担当／IT・DS人材／経営企画・営業企画／BI推進担当

### INPUT e-learning 9.5時間/5週間

データサイエンス、課題設定、統計、可視化、論理的説明、事業活用

### PRACTICE AI RolePlay 約8.5時間/約8週間

分析依頼ヒアリング、KPI合意、データ制約説明、中間報告、施策提言、経営報告

### OUTCOME

分析結果を非専門家に説明し、意思決定や次アクションにつなげられる

## Case 3 | ソリューション営業・顧客支援

### 対象者

法人営業／プリセールス／コンサルタント／カスタマーサクセス

### INPUT e-learning 9時間/5週間

市場・顧客調査、マーケティング、課題設定、要件定義、ロジカルシンキング、PM

### PRACTICE AI RolePlay 約9.5時間/約9週間

初回商談、課題深掘り、複数部門調整、提案、反論対応、価格交渉、決裁者商談

### OUTCOME

顧客の潜在課題を捉え、提案・反論対応・次回アクション合意まで進められる

# Case 1：生成AI・業務改善提案を、現場・上司・審査者へ説明する

想定対象者：DX推進部門・生成AI推進事務局／業務部門の改善リーダー・選抜人材／自部署で生成AIユースケースを企画する担当者

**到達目標 ①** 自部署の業務を分解し、生成AIを適用すべき課題を特定できる

**到達目標 ②** 効果だけでなく、実現性、データ、AI倫理、セキュリティ等の留意点を踏まえて企画できる

**到達目標 ③** 現場、上司、IT・セキュリティ、投資審査者など、相手ごとに説明を変えられる

e-learning受講コース例(Aidemy Business) 合計9 時間

| No | コース名／役割                                         | 時間    |
|----|-------------------------------------------------|-------|
| 1  | 【新】ChatGPT入門<br>生成AIの基本操作と注意点を理解                | 0.5時間 |
| 2  | ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門<br>業務で使うための指示設計を学習    | 1時間   |
| 3  | 事例で学ぶ！デジタル業務改善 2025年度版<br>業務改善の考え方を理解           | 1.5時間 |
| 4  | 事例で学ぶ！生成AI組み込みで社内業務効率化<br>生成AIを業務プロセスに組み込む視点を獲得 | 1時間   |
| 5  | 未知の課題に立ち向かう：課題設定力向上のすすめ<br>本質課題と優先順位を設定         | 1.5時間 |
| 6  | DXリテラシー：How（データ・技術の活用）留意点<br>安全・適切なデータと技術活用を理解  | 1時間   |
| 7  | AI時代に必須の「AI倫理」<br>誤情報、偏り、プライバシー等の論点を学習          | 1時間   |
| 8  | ケーススタディで学ぶ実践PoC入門<br>検証計画、評価、PoC推進を理解           | 1.5時間 |
| 合計 |                                                 | 9時間   |

AI RolePlayテーマ設計例 合計8時間

| # | 相手役・場面         | 主な実践内容                   | 応用パターン<br>(条件・相手の変更)  |
|---|----------------|--------------------------|-----------------------|
| 1 | 現場担当者への業務ヒアリング | 定型業務、負荷、例外処理、データ所在を確認    | 協力的でない担当者、課題認識が異なる担当者 |
| 2 | 部門長とのユースケース選定  | 効果・実現性・リスクを踏まえて優先順位を提案   | 話題性を重視する部門長への対応       |
| 3 | 生成AI活用企画の初回提案  | 課題、対象業務、活用方法、期待効果を説明     | 予算制約、短納期、既存システム制約を追加  |
| 4 | IT・セキュリティ・法務審査 | データ、権限、著作権、誤回答、監査への懸念に対応 | 個人情報あり、外部AI利用不可のケース   |
| 5 | ROI・PoC審査      | 効果試算、KPI、検証方法、撤退条件を説明    | 効果試算を厳しく問う審査者への対応     |
| 6 | 経営層への最終提案      | 経営課題との接続、投資意義、リスク対策を提示   | 別部門のユースケースへ転用         |



# 人材育成におけるAI RolePlayの立ち位置

複数施策の組み合わせで個人のスキルアップと組織的な営業力強化を推進

## 基礎を学ぶ

### E-learningによる知識の獲得

- 基礎リテラシー／生成AIの時代における技術知識を積み上げる
- 顧客との技術に関する会話を成立させるための背景知識を得る

### 専門家によるセミナー

- 変化の早い現場感とともに「なぜ今、この範囲が社会にとって重要か」を伝える
- 自らの商材を自信を持って語れる土台を作る

## 実践で磨く

### AI RolePlayによるアウトプット演習

- 知識（Learn）と本番（Engage）の間を埋める実践の場として位置づける
- 知識を商談で使える会話力へ変換し、予想外指摘に対しても当意即妙に打ち返せるよう、反復練習できる状態をつくる

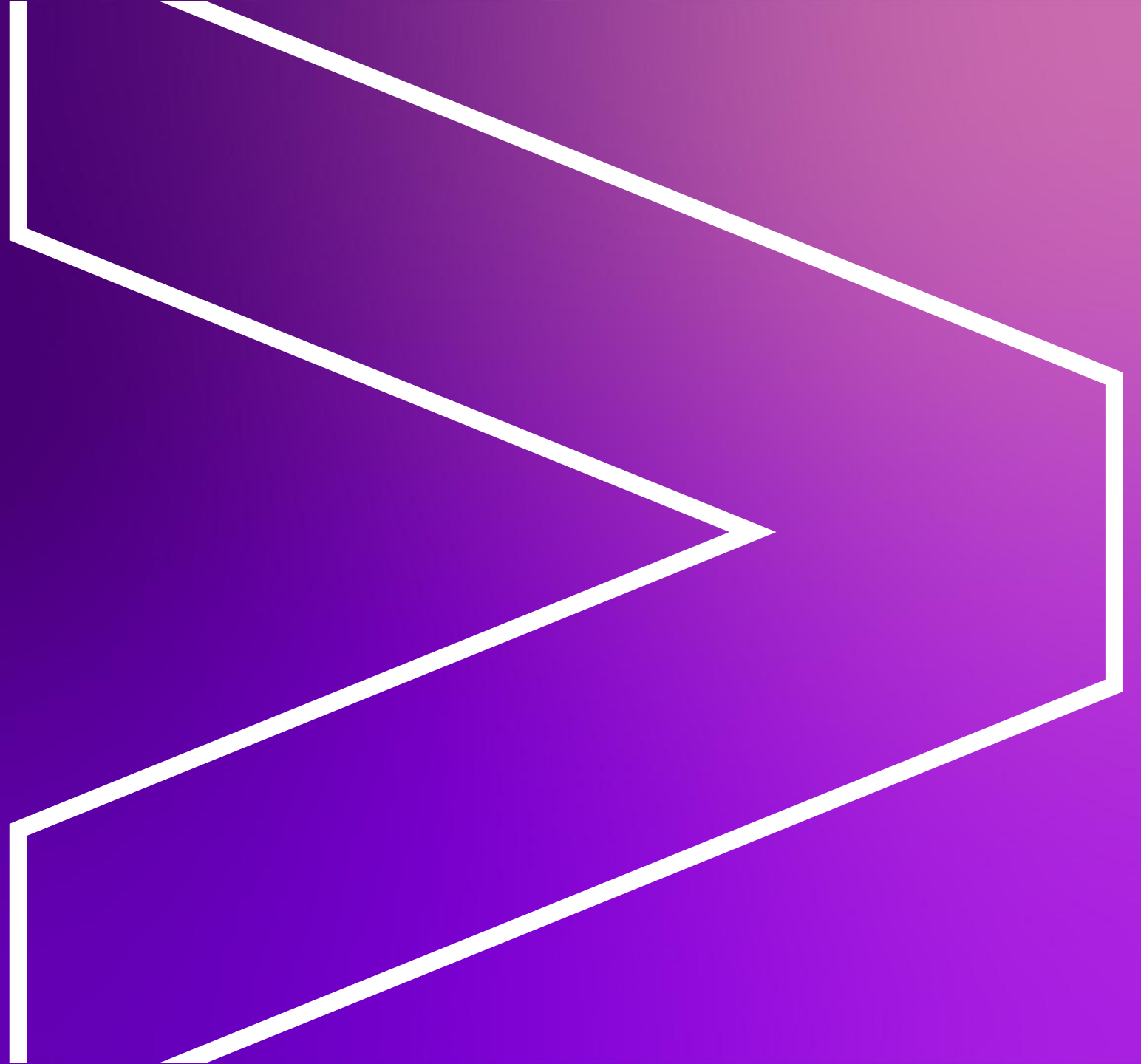


## ナレッジ蓄積と循環

### 定期的な実践シェアと振り返りの実施

- 商談・演習の実践結果を持ち寄って振り返り、FAQ・トークスクリプト・シナリオへ還流
- 組織が回を追うごとに強くなる仕組みを駆動を目指す

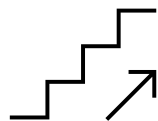
# Aidemy Practice



# 実践力を培う、実践型集合研修

実業務に近いハンズオンやPoCを通じて、学んだ知識を現場改善へつなげ、「わかる」から「できる」へ転換する

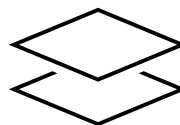
## —— 実務直結のハンズオン ——



実データ・実業務を活用し、受講後  
すぐに活用できるスキル習得を支援

- 実業務を題材とした演習
- サンプル・実データを用いたハンズオン
- 現場適用を前提としたスキル習得

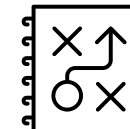
## —— 課題解決型の研修設計 ——



企業ごとの変革テーマや  
業務課題に沿って研修を設計

- AI人材育成
  - DX推進
  - 業務改革
  - 業務へのAI実装
- など、自社課題に即したプログラムを提供

## —— 定着まで伴走支援 ——



研修で終わらず、  
現場での活用・定着まで支援

- 研修後の質問対応
- 1on1相談
- フィードバックレポート
- 継続的な伴走支援

業務で実践し、変革を自走できる人材を育成する

## 技術スキル研修

[Power BI] データ可視化研修

[Power Automate for desktop]  
RPA基礎研修

Python基礎研修

## ビジネススキル研修

データ分析ハンズオン研修

システム要件定義ワークショップ

課題解決ワークショップ

PM (プロジェクトマネジメント) 研修

デジタル業務改善ワークショップ

UX企画ワークショップ

ソリューション提案ワークショップ

ビジネスモデル変革ワークショップ

# 生成AI活用研修（対話型AI/社内ナレッジ活用/社内ナレッジ検索連携/AIエージェント）

概要

カリキュラム

目安人数 20名

形式 2日間 計6時間 | 講義 & 演習

|                                                                                     |       |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 概要    | Gemini/NotebookLM/社内ナレッジ検索連携/Agent Builder※ を実際に操作しながら、AI活用の原理原則と実践スキルを体得できる                                                                                                                                                                                   |
|    | 対象者   | Google Cloud※ を業務利用している方（部門、職種不問）                                                                                                                                                                                                                              |
|    | 必要スキル | <ul style="list-style-type: none"><li>・PCの基本操作（ブラウザ、ファイル操作）ができること</li><li>・Geminiアカウント※ へのアクセスが可能なこと</li></ul>                                                                                                                                                 |
|   | ゴール   | <ul style="list-style-type: none"><li>・生成AIの仕組みと得意・不得意を正しく理解できる</li><li>・Gemini※ を使った文章編集・議事録生成・情報収集を体験できる</li><li>・NotebookLM※ で社内ナレッジを活用した回答生成を実践できる</li><li>・生成AIを「思考支援ツール」として業務に使いこなせるようになる</li><li>・Agent Builder※ でエージェントを設計・制作し業務自動化のイメージを持てる</li></ul> |
|  | 導入実績  | 保険会社など（Google Cloud※ 全社導入環境での実施事例）                                                                                                                                                                                                                             |

※ Google Workspace、Microsoft/Copilot など、環境ご利用環境に合わせてカスタマイズしてご提供します。ライセンス構成に応じてご提案しますので、お気軽にご相談ください。



# 生成AI活用研修（対話型AI/社内ナレッジ活用/社内ナレッジ検索連携/AIエージェント）

概要

カリキュラム

●：講義/インプット      ●：アウトプット      ●：ディスカッション・発表など

| DAY1 |                                    |     |
|------|------------------------------------|-----|
|      | 内容                                 | タイプ |
| 1    | 生成AI概論                             |     |
|      | 1. 生成AIとは？ ～生成AIの仕組みと得意・不得意領域      | ●   |
|      | 2. ナレッジ活用の重要性・勘所                   |     |
|      | 3. Google系AI 主要ツールの紹介              |     |
| 2    | Gemini実習                           |     |
|      | 1. Geminiとは？／対話型AI Geminiにできること    | ●/● |
|      | 2. プロンプトの基本構造・プロンプト設計の勘所           |     |
|      | 3. 実習1～3                           |     |
| 3    | NotebookLM実習                       |     |
|      | 1. NotebookLMとは何か／ナレッジ活用の重要性       | ●/● |
|      | 2. ナレッジ設計の考え方・良いナレッジの作り方           |     |
|      | 3. 実習1～2                           |     |
| 4    | 社内ナレッジ検索実習                         |     |
|      | 1. 社内ナレッジ連携検索の仕組みと注意点 連携検索の仕組みと注意点 | ●/● |
|      | 2. 実習1～2                           |     |
| 5    | エージェント制作実習                         |     |
|      | 1. エージェントとは何か？                     | ●/● |
|      | 2. エージェント設計の原則および方法                |     |
|      | 3. 実習1～3                           |     |

| DAY2 |                                  |     |
|------|----------------------------------|-----|
|      | 内容                               | タイプ |
| 1    | Gemini研修の振り返り                    |     |
|      | 1. AIエージェントとは何か？                 | ●/● |
|      | 2. エージェントと通常チャットの違い              |     |
|      | 3. 実習                            |     |
| 2    | アンチパターンから学ぶ マルチエージェントの必要性        |     |
|      | 1. なぜ、エージェントを分けなければいけないのか？       | ●   |
|      | 2. アンチパターン1～3                    |     |
|      | 3. コンテキストエンジニアリングとは？             |     |
| 3    | マルチエージェントの設計パターン                 |     |
|      | 1. マルチエージェント設計の原則                | ●   |
|      | 2. マルチエージェント構成について 1～2           |     |
| 4    | 市民開発に向けたエージェント例                  |     |
|      | 1. 自部署でのエージェント化を決断するポイント         | ●   |
|      | 2. 本社系業務に対するマルチエージェント適用例         |     |
| 5    | エージェント制作実習 1：「次アクション策定＋メール文面作成」  |     |
|      | 1. マルチエージェント制作の勘所 (1) ×ナイーブな制作法  | ●/● |
|      | 2. マルチエージェント制作の勘所 (2) 人間とAIの作業分担 |     |
| 6    | エージェント制作実習 2： 自由テーマ              | ●   |
|      | 3. 知識基盤を中心としたAI開発(1) 知識基盤の整備     |     |
|      | 4. 知識基盤を中心としたAI開発(2) 生成基盤の整備     |     |
| 7    | グループディスカッション                     | ●   |
|      |                                  |     |
|      |                                  |     |



# 生成AI活用研修（対話型AI/社内ナレッジ活用/社内ナレッジ検索連携/AIエージェント）

Technical Instructions

## マルチエージェント構成について

複数のエージェントを協調させてタスクを完遂させるのがマルチエージェントです。色々な構成の型があります。Geminiはエージェントの連鎖を扱えないため、親エージェントが最後まで面倒を見る形になります。

### パイプライン型（連鎖）

Copilot Studioなどではこの形をよく使う。コンテキストがリセットされるためバンクしにくい。

調査者：調査結果は...

報告した結果のみ引き継ぐ。報告されなかった内容は共有されない。

検証者：検証の結果...

報告した結果のみ引き継ぐ。報告されなかった内容は共有されない。

報告者：結果をまとめると...

### オーケストレータ型（階層）

Gemini Agent Builderではこの形を活用する。親のコンテキストはリセットされないが、長大なコンテキスト長を活かす構成。

オーケストレータ（親）：調査依頼→検証依頼→結果まとめ依頼

調査者：調査結果は...

検証者：検証の結果...

※親子間では、相手に報告した内容のみ共有  
※フロー型はやや難度が高いため、本研修では

Copyright © 2026 Accenture. All rights reserved.

## Main Story

### 応用実習1：演習概要

作成するもの  
学習の要点

実施内容

ポイント

- 複数パターンの議事録リライトができるエージェント制作を通じ、マルチエージェント構成
- ① サブエージェント（ワーカー）
- ② 条件に応じて使い分け
- ③ 議事録を入力し、
- タイプごとにサブエー
- メインエージェントは「

Copyright © 2026 Accenture. All rights reserved.

Technical Exercise

## 応用実習1：議事録総合リライトエージェント

議事録の要約では、これまでに敬称のリライト付きの要約AIを作成しました。これに加えてあと2種類を作ります。サブエージェントのプロンプトは提供されたファイルを使って良いので、メインエージェントを作ってみましょう。

議事録総合リライト

論点整理

単純要約

社外向け敬称リライト

メインエージェント（オーケストレータ）  
指示文を手書きしてもよいですが、サブエージェントを完成させた上で、以下のようにAgent Builderに依頼すると指示文を作ってくれます。

メインエージェントの指示文を作ってください。  
会議の議事録が、  
①社外メンバーを含む場合、社外向け敬称リライトを呼ぶ。  
②ユーザーによって論点を明確に指示されたら論点整理を呼ぶ。  
③特に指示もなく、社外メンバーもいない場合は単純要約を呼ぶ。  
いずれかのサブエージェントを呼び出し、結果を得たら、それをユーザー向けに表示する。

サブエージェント（ワーカー）  
左記の通り、サブエージェントの指示文の候補は提供済みです。今回はそのままコピーして指示文として使って構いません。サブエージェントの名称や説明文は適宜入力してください。

本課題では、以下のプロンプトは講師によってテキストファイルで提供されています。そのまま指示文として利用して構いません。

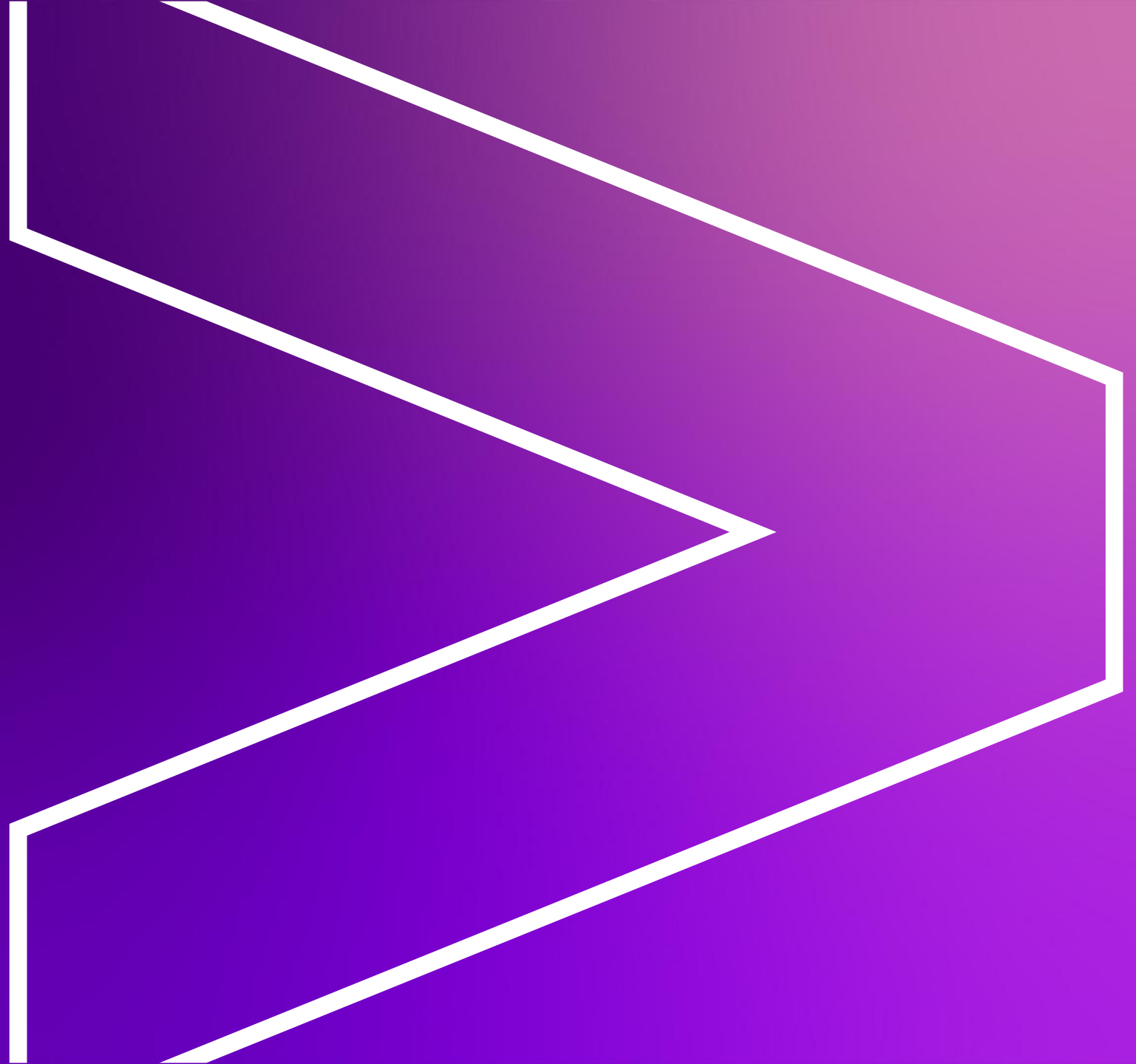
論点整理プロンプト.txt  
単純要約プロンプト.txt  
敬称リライトプロンプト.txt

作成したらエージェントとのチャットをスタートし、議事録をアップして、色々な指示文でまとめを作ってみましょう。同じ議事録から色々なまとめが生成します。

Copyright © 2026 Accenture. All rights reserved.

Copyright © 2026 Accenture. All rights reserved.  
This Proposal is Highly Confidential and Proprietary to Accenture. 42

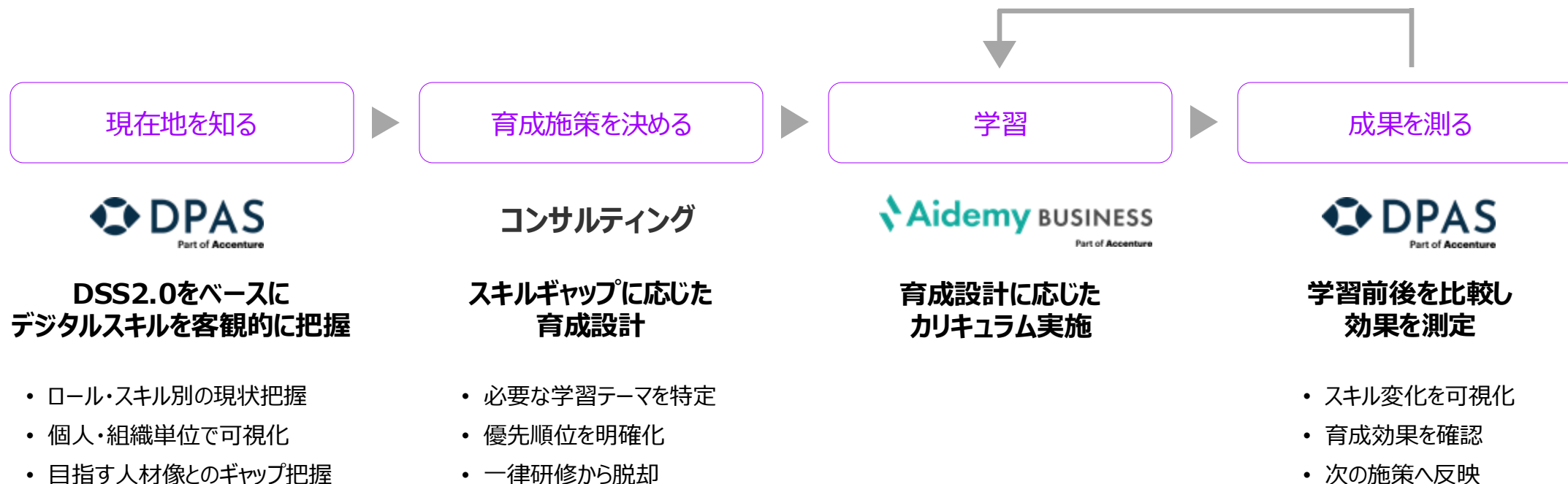
**DPAS**



# 育成の意思決定を支えるデジタルアセスメント

人材の現在地と変化を可視化し、継続的なTalent Reinventionを支える

— データに基づく人材育成サイクル —



現在地を把握してこそ、適切な学習施策と効果的な人材育成が実現できる

# デジタルスキル標準（ver.2.0）に準拠した、15種類のアセスメント

|     | マインド・スタンス                        |   |   | スキル                              |             |
|-----|----------------------------------|---|---|----------------------------------|-------------|
|     | デジタルスキル標準（ver.2.0）「DXリテラシー標準」に準拠 |   |   | デジタルスキル標準（ver.2.0）「DX推進スキル標準」に準拠 |             |
| レベル | 共通                               |   |   | 専門スキル                            |             |
|     |                                  |   |   | 6つの人材類型                          |             |
|     |                                  |   |   | ビジネスアーキテクト                       | データマネジメント   |
|     |                                  |   |   | デザイナー                            | ソフトウェアエンジニア |
|     |                                  |   |   | データサイエンティスト                      | サイバーセキュリティ  |
|     | ×                                | × | × | ×                                | ×           |
| 内容  | マインド・スタンス                        |   |   | 知識確認テスト                          | 経験アンケート     |
|     |                                  |   |   |                                  |             |
| 種類  | 1種類                              |   |   | 6種類                              | 6種類         |
| 問題数 | 40問                              |   |   | 35問                              | 20問         |
| 時間  | 15分※1                            |   |   | 20分                              | 10分※1       |

※「マインド・スタンス」「経験アンケート」は制限時間型ではございません。記載内容は目安時間となります。  
※「知識確認テスト」受検中にアセスメント画面以外の操作を行った場合、不正検知機能（＝カンニング防止策）が動作します。「マインド・スタンス」「経験アンケート」は不正検知機能の対象外です。  
なお、不正検知機能の設定については「緩和/強化」の2種類から選択いただけます。初期値は「緩和」に設定されております。設定を変更したい場合には弊社営業担当へご連絡ください。  
※15分、20分、10分の各アセスメントは連続して受検する必要はございません。各アセスメント間は中断可能です。ただし、一つのアセスメント受検中の中断は不可です。

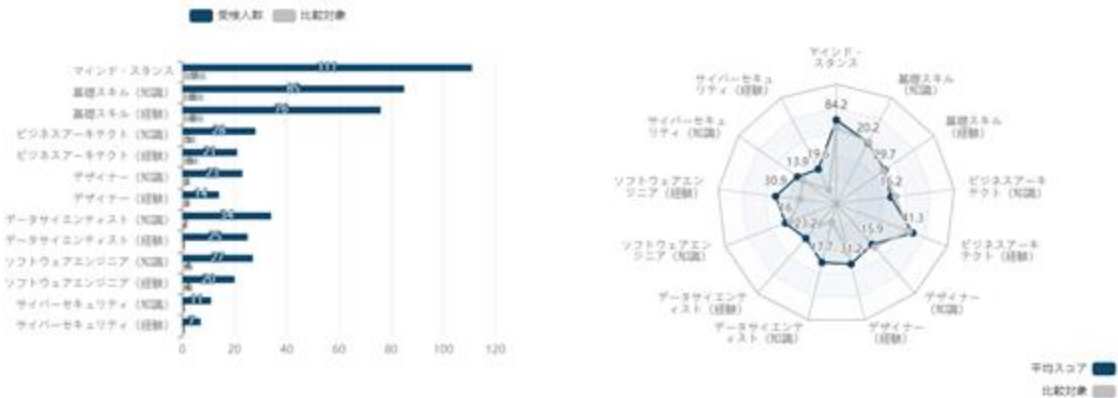
サービス詳細：DPAS

# 多角的に分析ができるアセスメント結果

## 4つの平均との比較・分析

- DX推進力のポジションとボトルネックを把握

- 全受検者平均** DX推進力が全体のどのレベルかを比較できる。
- 企業別平均** グループ内外の企業とDX推進力を比較できる。優れている企業の特徴・施策の分析目安に！
- 部署別平均** 会社内での部署別のDX推進力を確認ができる。ボトルネックになっている部署の発見に！
- 業界別平均** 業界内の自社のDX推進力のポジション確認ができる。競争力を高める戦略策定の参考に！

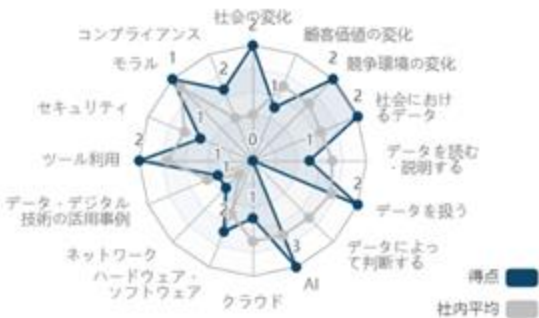


## フィードバック・前回スコア比較 - 個人

- ✓ 個別フィードバックと前回スコア比較で進捗を確認し、最適な学習コースで弱点を効率的に克服
- ✓ 個人スコア（基礎スキル：知識）の可視化で、強み・改善ポイントを具体的に提示

基礎スキル（知識）

| 大分類                 | 中分類             | 得点 | 社内平均 |
|---------------------|-----------------|----|------|
| Why：DX意義            | 社会の変化           | 2  | 0.8  |
|                     | 顧客価値の変化         | 1  | 1.4  |
|                     | 競争環境の変化         | 2  | 1.4  |
|                     | 小計              | 5  | 3.6  |
| What：DXで実現されるデジタル活用 | 社会におけるデータ       | 2  | 1.3  |
|                     | データを読む・説明する     | 1  | 1.4  |
|                     | データを扱う          | 2  | 1.5  |
|                     | データによって判断する     | 0  | 0.7  |
|                     | AI              | 3  | 2.1  |
|                     | クラウド            | 1  | 1.4  |
|                     | ハードウェア・ソフトウェア   | 2  | 1.5  |
|                     | ネットワーク          | 1  | 0.5  |
|                     | 小計              | 12 | 10.4 |
| How：データ活用での活用       | データ・デジタル技術の活用事例 | 1  | 1.3  |
|                     | ツール利用           | 2  | 1.5  |
|                     | セキュリティ          | 1  | 1.3  |
|                     | モラル             | 1  | 0.9  |
|                     | コンプライアンス        | 2  | 1.2  |
| 合計（DX知識）            |                 | 24 | 20.2 |



### 弱点克服おすすめコース

- ▼戦略・マネジメント・システム
- 変革マネジメント ～モデルアップで壁を越える～
  - ビジネスを成功に導く：ポートフォリオマネジメントとスタートアップエコシステム
  - ビジネス変革に求められるプロダクトマネジメント
  - 複雑さに対応するためのシステムズエンジニアリング概論
  - エンタープライズアーキテクチャ：全体最適で事業を再構築する
  - プロジェクトマネジメント入門

- スコアに応じて、下記が表示されます。
- ・ 弱点克服おすすめコース
  - ・ 改善ポイント
  - ・ スコアから分かるあなたの強み

# 育成イメージ

適用事例



# 全社AX/DXマインド醸成&人材育成プログラム

全社員の行動変容とカルチャー定着まで見据えた、AX/DX人材育成プログラムの適用事例

## お客様の背景・課題

- 一部の専門人材だけが先行し、社員一人ひとりが「なぜAX/DXに取り組むのか」を理解できていない
- 生成AI・データ・デジタルの基礎知識を全社員が身につけ、自らの業務で活用できる状態をつくることが求められていた

## ご提案したソリューション

- ①カスタムコンテンツによる変革カルチャーの醸成
- ②Aidemy Business(e-learning)による知識獲得
- ③AI RolePlayによるアウトプット演習
- ④学習・演習データに基づく継続的なコンテンツアップデート

## 成果・目指す姿

- 単発の研修や知識習得に留まらず、「理解する → 自分の言葉で考える・語る → 実務で活用する → データから次の学びにつなげる」サイクルの構築
- 社員の行動変容とAX/DXを推進するカルチャーの定着を目指す

# 課題に対するアプローチと活用サービス

アクセンチュアの知見・人材育成アセットを組み合わせ、4つの打ち手で課題に対応する

## 意識の壁

### ①変革カルチャーの醸成

活用サービス

#### カスタムコンテンツ

経営メッセージと自社文脈で「なぜ今AX/DXか」を自分ごと化

## 知識の壁

### ②基礎知識の獲得

活用サービス

#### Aidemy Business (e-learning)

役割・レベル別カリキュラムで全社員の  
共通言語をつくる

## 実践の壁

### ③アウトプット演習

活用サービス

#### AI RolePlay

自分の言葉で語り、実務さながらの対話で  
繰り返し練習する

## 定着の壁

### ④継続的なアップデート

活用サービス

#### 学習・演習データ分析

受講・演習データから内容を更新し、次の  
学びにつなげる

**目指す姿：理解する → 自分の言葉で考える・語る → 実務で活用する → データから次の学びにつなげる**

このサイクルを回し続けることで、社員の行動変容とAX/DX推進カルチャーの定着を継続的に後押しする

# ①変革カルチャーの醸成 / ②基礎知識の獲得 : Aidemy Business

全社員が「なぜAX/DXに取り組むのか」を理解し、基礎知識を身につけ、自らの業務で活用できる状態をつくる

## 変革カルチャーの醸成 (オリジナルコンテンツで学ぶ)

経営トップ・役員メッセージを組み込み、  
中期経営計画のAI活用方針と現場業務を結びつけて語る

「なぜ今、当社がAX/DXなのか」を業界構造の変化・  
競合動向・顧客期待の変化の3点から自社文脈で解説

自社ユースケースを題材に、変化を具体イメージ化

「AIに仕事を奪われる」ではなく、「AIと働き方を再設計する」への転  
換を促す、不安・抵抗に正面から答える

部門・役割別の視聴導線で、一人ひとりの自分ごと化を設計

## 業務活用の土台を体系的に身につける



生成AIとは何か・どう使うか・どんなリスクがあるかを全社員が共通言語として持つための基  
礎カリキュラム。DSSリテラシー標準に準拠。

| No                       | コース名                              | 時間(h) | 対応ライセンス |
|--------------------------|-----------------------------------|-------|---------|
| Phase 1   AIとDXの全体像を知る   |                                   |       |         |
| 1                        | 10分でキャッチアップ   生成AIとは              | 0.5   | ベース     |
| 2                        | 10分でキャッチアップ   AIにできること            | 0.5   | ベース     |
| 3                        | 10分でキャッチアップ   機械学習とは              | 0.5   | ベース     |
| 4                        | 10分でキャッチアップ   生成AIを支えるアーキテクチャとモデル | 0.2   | ベース     |
| Phase 2   生成AIを実際に使ってみる  |                                   |       |         |
| 5                        | 【新】ChatGPT入門                      | 0.5   | ベース     |
| 6                        | ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門         | 1     | ベース     |
| 7                        | ChatGPTではじめるかんたんメール作成             | 0.2   | ベース     |
| 8                        | Microsoft Copilot入門               | 1     | ベース     |
| Phase 3   安全・倫理・ルールを理解する |                                   |       |         |
| 9                        | AI時代に必須の「AI倫理」                    | 1     | プロ      |
| 10                       | 10分でキャッチアップ   生成AIコンテンツと著作権       | 0.2   | ベース     |
| 11                       | 10分でキャッチアップ   AIガバナンスとは           | 0.5   | ベース     |
| 12                       | 生成AI時代の知的労働                       | 1.8   | ベース     |
| 合計                       |                                   | 7.9   |         |

### ③アウトプット演習：AI RolePlay

全社員が「なぜAX/DXに取り組むのか」を理解し、基礎知識を身につけ、自らの業務で活用できる状態をつくる  
オリジナルシナリオを複数構築することができる

#### シナリオA | マインド醸成 AX推進に向けた同僚の意識変革

##### ペルソナ

バックオフィス部門・中堅社員。  
日々の業務に大きな不満はなく、AXによる業務変革の必要性を感じていない。新しいツールの習得や業務変更による負担増にも懸念を持っている。

**本音**「今のやり方で仕事は回っているし、わざわざAIを使う必要はないのでは」

##### 評価観点

- ・ 対相手の不安や抵抗感を否定せず、「なぜAXに取り組むのか」を相手の業務目線で説明できたか
- ・ 身近な業務を題材に具体的なメリットを提示し、小さく試してみる次アクションにつなげられたか

#### シナリオB | 実務への適用 DXによる業務改善アイデアの創出

##### ペルソナ

自部門の業務を熟知する部下。  
日々の業務に非効率や手作業があることは認識しているが、どの業務をデジタル化すべきか、具体的な改善アイデアまでは整理できていない。

**本音**「改善できそうなところはあるんですが、何から手を付ければいいのか分かりません」

##### 評価観点

- ・ 現行業務の課題やボトルネックを問いかけによって具体化できたか
- ・ デジタル化ありきではなく、業務課題を起点に複数の改善アイデアを引き出せたか
- ・ 効果と実現性を踏まえ、検証すべきテーマや次アクションまで整理できたか

#### シナリオC | 実践 営業における生成AI活用の具体化

##### ペルソナ

営業部門・マネージャー／上司。  
生成AIへの関心はあるものの、営業活動のどの業務に適用でき、どの程度の効果が期待できるのか整理できていない。情報管理や品質面への懸念もある。

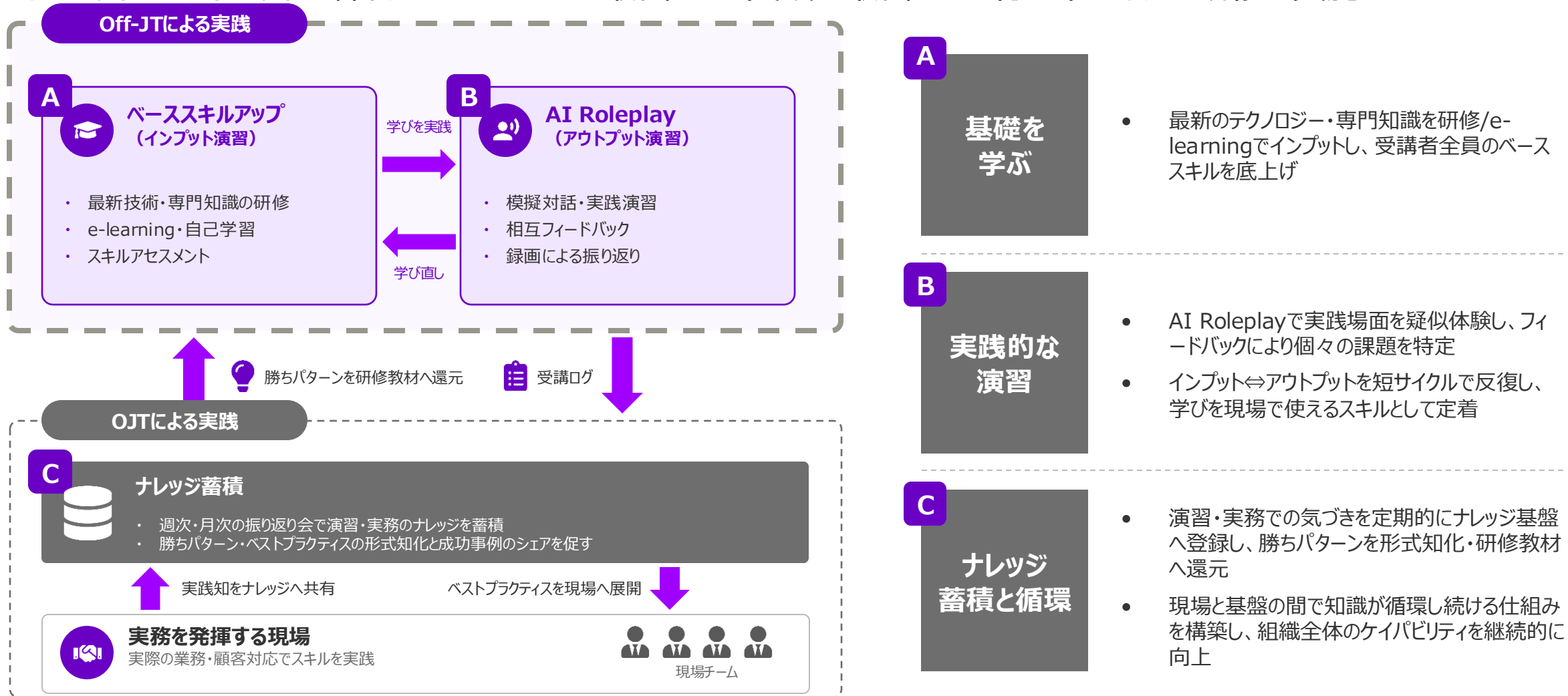
**本音**「生成AIが使えるのは分かるけど、営業で本当に効果が出る使い方は何だろう」

##### 評価観点

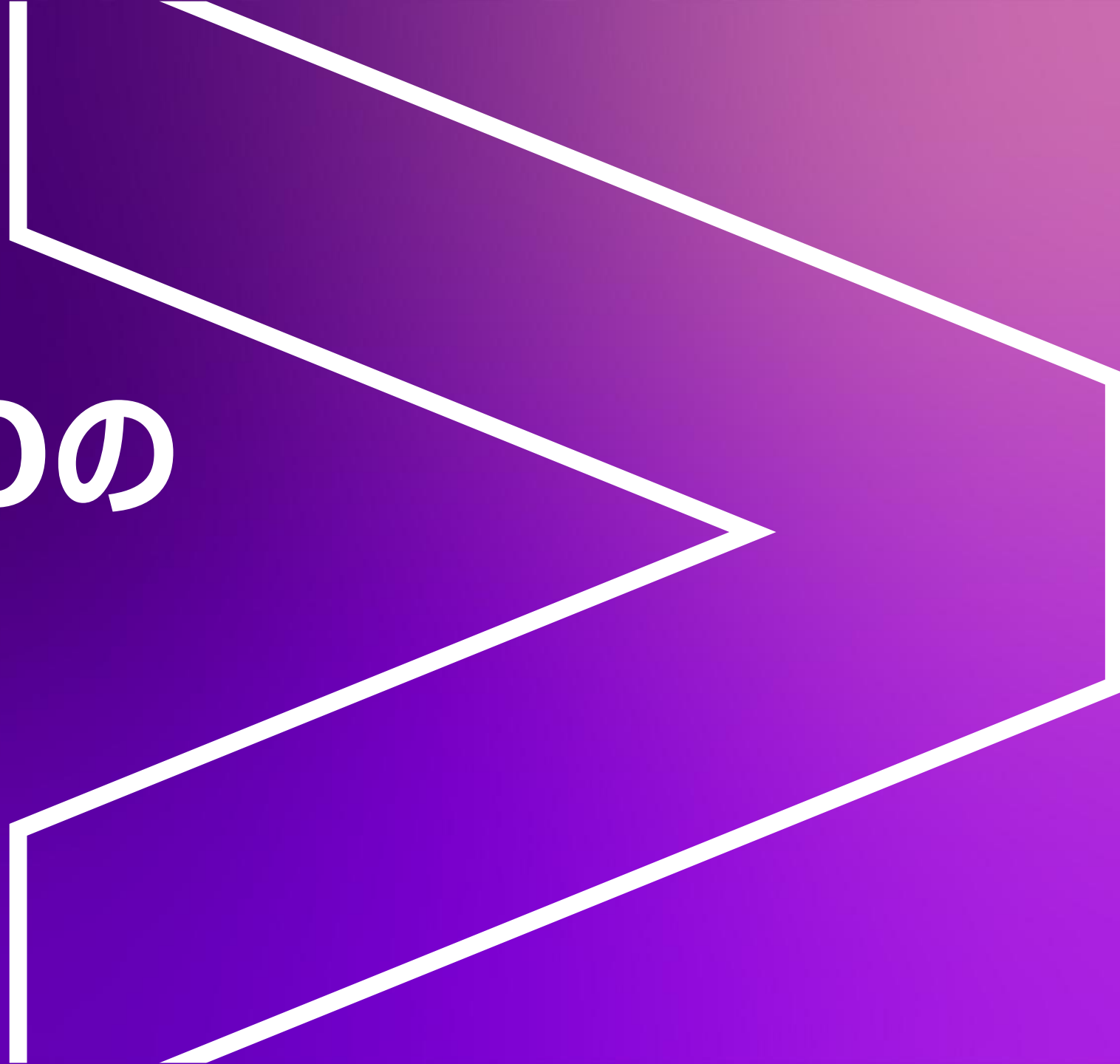
- ・ 営業プロセスを分解し、生成AIを活用できる業務やユースケースを具体化できたか
- ・ 効果だけでなく、情報管理・精度・運用などのリスクも踏まえて議論できたか
- ・ 有望なユースケースを絞り込み、PoCやスモールスタートなど次のアクションまで提案できたか

## ④ 継続的なアップデート

インプット・アウトプットを繰り返し、Off-JTの取り組みと実践の取り組みを行き来しながら研修を実施します



# MFA・SSOの ご案内



# MFA（多要素認証）・SSO（シングルサインオン）のご案内

セキュリティ強化のため、2026年12月以降、MFA（多要素認証）が必須・SSO（シングルサインオン）が推奨となります。導入ご検討時にあらかじめご確認ください。

## 概要

必須



### MFA （多要素認証）

ID/パスワードに加え、認証アプリのワンタイムパスワードで本人確認（TOTP方式）を行います。

推奨



### SSO （シングル サインオン）

貴社の認証基盤（IdP）とSAML方式で連携できます。  
Entra ID・Okta・ADFS等の主要IdPに対応。



### 対象と要否

**MFAは管理者・受検者の全アカウントで原則必須**となります。  
SSOは任意ですが、セキュリティ強化と運用効率向上のため推奨しています。



### 提供開始時期

2026年10月以降のご契約で提供予定です。  
詳細な設定ガイドは2026年10月頃にご案内します。  
※既にご利用中の場合は、12月以降に切り替えとなります。

## MFA導入方法



以下いずれかのMFA認証方法を推奨しております

- 企業のID基盤と連携した SSO利用によるMFA有効化
- 認証アプリを活用し ワンタイムパスワードを取得



端末に制約がある場合も、  
共有端末・PC版・USBポータブル版の認証アプリで  
ご利用いただけます



ご不明点は導入のご検討段階から  
担当営業までお気軽にご相談ください

※「MFA・SSO機能導入に関する 事前ご案内.pdf」も合わせてご確認ください



トライアルのご案内

# 無料トライアルのご案内

＼ ご商談企業様限定 ／

資料では伝わらない、“使って納得”の体験を。  
だからこそ、使って実感してほしい無料トライアルです



## 290以上の全コースが対象

トライアルでも、本番環境と  
同じくすべてのコースを受講いただけます



## 少人数からOK！ 1名でも開始可能

トライアル人数・期間は  
柔軟にカスタマイズ可能



## 何度でも再実施OK！

「もう1度試したい」にも対応。  
競合は1社1回までが一般的な中、  
弊社は何度でも！

※2026年12月以降のトライアルではMFA認証が必須となります。  
12月以降にトライアルご予約定の企業様には、10月頃に詳細をご案内いたします。

「本当に現場で使えるか？」を見極めてから導入判断できます！  
お気軽にお申しつけください。

